

金融問題と経済報道

教授 伊藤隆康

1. 研究内容

2年次から4年次を通じて、前半の50分間で日本経済新聞の記事を利用し、グローバル化がすすむ金融や経済の現状を学んでいく。ここでは学生各自のスマホやタブレットを用いて、最新の記事も閲覧する。後半の50分間で2年次と3年次の春学期は、金融に関する入門書（金融制度、金融政策、金融システム、国際金融など）を輪読し、議論する。3年次の秋学期からは、輪読にかえて課題研究を行う。

担当者がレジュメ等を用意してプレゼンテーションを行い、参加者全員で議論を進める。このため発表の担当者以外も日本経済新聞や文献を事前に熟読して、問題意識を持って議論に参加することが必要不可欠である。プレゼンテーション・スキルをつけるために、パワーポイントを利用して発表してもらうこともある。

この演習では、(1)金融機関や企業などで必要になる、金融・経済に関する基礎的な知識を修得する、(2)就職活動時に必要となる金融・経済に関する時事問題を理解し、自分なりの見解を持てるようにする、(例えば、ドル円為替レートは先行きいくらになるか) (3)議論等を通じて、コミュニケーション・スキルの向上をはかる、(4)金融・経済の学習を通じて、グローバルな感覚を養う、--の4点を旨とする。

2. ゼミの進め方（予定）

2年次から4年次を通じて合宿は行わない。学生数によって、進め方が若干異なる場合がある。

《2年次》

春・秋学期 日本経済新聞に関する報告、入門書の輪読を行う。

《3年次》

春学期 日本経済新聞に関する報告、入門書の輪読を行う。秋学期 日本経済新聞に関する報告を行う。学生各自が興味のある金融に関する課題を選択の上、研究報告をしてレポートを完成させる。

《4年次》

春・秋学期 日本経済新聞に関する報告を行う。学生各自が興味のある金融に関する課題を選択の上、研究報告をしてレポートを完成させる。レポートを発展させて、卒業論文として提出することも可能である。春学期は就職活動の状況を考慮に入れて、演習を進める。

3. 教材（輪読用の教科書）

島村、中島（著）「金融読本（最新版）」東洋経済新報社を用いる予定であるが、変更の可能性もある。

4. 成績評価の方法

報告の準備、プレゼンテーション、討論への参加状況、レポートなどにより評価する。

5. ゼミ入室試験（選考方法）

選考方法につきましては、Oh-o!Meijiにて、後日連絡します。

6. その他・志願者へのメッセージなど

- (1) 正当な理由がない限り、週1回の演習には毎回出席することが必要である。
- (2) 選択するコースにかかわらず、3年次に金融機関論A・Bの講義を必ず履修してもらう。
- (3) 日本経済新聞を各自で購読（電子版は必須、紙版は任意）し、動きの激しい金融・経済問題の動向をフォローする。日経新聞を2年生から読み始めることで、就職活動を有利にすすめることができる。また、テレビ東京で放映されているWBSなどの経済関連番組を継続的に視聴することも重要である。
- (4) 証券アナリストや簿記検定、英検などの資格試験の勉強を自習することが十分に可能である。また、長期休業期間中に短期の海外留学をするという選択肢もありうる。
- (5) 就職先は金融機関に限らず、商社や製造業、マスコミ等も候補となる。
- (6) 担当教員の経歴等は、担当教員のホームページ <http://www.tito747.sakura.ne.jp/> を参照すること。